



大図研近畿 3 支部合同例会開催のお知らせ

「オンライン教材，教学 IR と大学図書館」

MOOCs をはじめとしたオンライン教材は、時間や場所にとらわれず学習者の学ぶ機会を増やし、かつ講義（主催）者と学習者、あるいは学習者同志の容易なつながりをもたらしました。

大学図書館は従来、自発的な学習・研究の場として機能してきたはずですが、学習のスタイルや場所の広がり、そこで行われる多様な学習活動の可視化への取組に対し、どのように関わるができるのでしょうか。

この例会では、高等教育におけるオンライン教材の現状、教学 IR の実践事例大学における情報リテラシー教育事例についてそれぞれご報告いただき、広い視野に立っての大学教育の全体像を知り、大学図書館の役割について考える機会になればと思います。

日 時：平成 28 年 3 月 21 日（月・祝日）13：00 ～（12：30 開場）

場 所：弁天町 ORC200 生涯学習センター（オーク 200 ビル内 2 番街 7 階）

第 2 研修室（JR 環状線，地下鉄中央線「弁天町」駅 徒歩 5 分）

<http://www.kyoiku-shinko.jp/orc200/access/>

講 師：船守 美穂 氏（東京大学 教育企画室）

星野 聡孝 氏（大阪府立大学 高等教育推進機構）

小松 泰信 氏（大阪女学院大学）

* パネルディスカッションあり

申 込：大学図書館問題研究会 大阪支部 Web サイト

<https://sites.google.com/site/dtkosakaweb/home/>

主 催：大学図書館問題研究会 大阪支部

共 催：大学図書館問題研究会 京都支部・兵庫支部

[目 次]

大学図書館問題研究会近畿 3 支部合同例会開催のお知らせ	…	1
連続企画：わたしの図書館紹介します！ 紹介番号 7		
「京都大学附属図書館宇治分館」	今野 創祐	… 2
新入会員 挨拶	内田 栞	… 4
新入会員 挨拶	神村 茉里	… 5
新入会員 挨拶	十倉 史帆	… 6
新入会員 挨拶	若狭 あや	… 7

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：kyoto@daitoken.com（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

連続企画:わたしの図書館紹介します!

紹介番号 7 京都大学附属図書館宇治分館**今野 創祐**

1. はじめに

京都大学附属図書館宇治分館（以下、「宇治分館」と表記）に勤務しております、今野創祐と申します。今回は私の現在の職場と仕事について、皆様にご紹介させていただきます。

2. 宇治分館のサービス

京都大学には、吉田キャンパス、桂キャンパス、宇治キャンパスの3つのキャンパスと、多くの遠隔地施設があります。京大内には50以上の図書館・室がありますが、宇治分館は宇治キャンパスにある唯一の図書館です。宇治キャンパスは京都府宇治市のJRおよび京阪電鉄の黄檗駅の近くに位置し、化学研究所、エネルギー理工学研究所、生存圏研究所、防災研究所という4つの研究所と、大学院研究科のうち農学研究科や工学研究科などの一部、産官学連携本部の一部で構成されています。そのため、宇治分館は理系の専門書を蔵書の中心としています。蔵書冊数は製本雑誌も含めて約7万冊と、決して多いとは言えませんが、通常の貸出に加えて、吉田キャンパスや桂キャンパスなど他地区の図書館・室の図書であっても、学内であれば無料で取り寄せることができます。また、有料となりますが、学外の図書館からも図書や論文のコピーを取り寄せることができます。

宇治キャンパスには外国人共同研究者や派遣研究員など、非常勤の教職員が多く在籍します。そうした方々が電子ジャーナルやデータベースを利用するためのIDの新規発行、継続の申請の受付も、当館が宇治キャンパスでの窓口となっております。

当館は閲覧室と書庫の2部屋に分かれており、閲覧室では、ゆったりした雰囲気の中で自習をしたり、新聞（京都新聞等、7紙）や「文藝春秋」「中央公論」などの雑誌を読んで、教養を高めることができます。最新の科学分野の書籍や雑誌を購入・配架している他、TOEICやTOEFLといった語学のテストの参考書も所蔵しており、よく利用されています。また、当館には学生用図書のリクエスト制度があります。学生自身によるリクエストだけではなく、教職員から見て学生用図書としてふさわしい図書があれば、リクエストすることができます。

書庫には、理系の学術雑誌のバックナンバーなど、古い資料や貴重な資料が多く所蔵されています。現在、宇治キャンパスの所属者は電子ジャーナルで論文を読むことが主流となっておりますが、電子ジャーナルで読めない昔の論文が、当館の書庫にある雑誌に掲載されていることもあります。

開館時間は平日の9時から17時までで、当館所蔵の資料をご利用になる目的の場合、学外の方もご利用いただけます。また、宇治キャンパス所属者の場合、手続きをとっていただければ17時から24時までの利用も可能です。

その他に、宇治キャンパスでは毎年、専門家を講師としてお招きしてSciFinderやWeb of Scienceなど、各種データベースの講習会を実施しています。こちらの講習会は学内者を対象としておりますが、例年、好評をいただいております。

以上、宇治分館にいらっしゃる利用者の方々を対象としたサービスについて書いてきましたが、そのほかにも、宇治キャンパス内の研究室に備え付けられている図書や雑誌の購入なども、当館の重要な業務の一つとなっております。

3. 私の業務

私は現在の職場に異動になり、早くも3年近くとなります。現在の私の図書館員としての主な業務は、閲覧、ILL、雑誌の受入です。私は現在の職場に来て、初めてILLと雑誌の受入の業務を覚えましたが、いずれの業務においても、宇治キャンパスならではの特殊性があるように思いました。

前述の通り、宇治分館は理系の専門書を蔵書の中心としており、文学作品や人文系の専門書はほとんど所蔵していません。そのため、そうした文学作品や人文系の専門書を多く所蔵している、吉田キャンパス内の図書館・室に現物貸借の依頼を出すことが頻繁にあります。

また、雑誌は現物を貸借することができないため（掲載されている論文のコピーを、有料で取り寄せることはできますが）、吉田キャンパスの図書館・室が購読している雑誌であっても、別途、宇治キャンパスで購読する必要があります。

閲覧業務についても、様々なことを学びました。私は現在の職場に異動する前は、文学研究科の図書館で勤務していたのですが、そのときにはほとんどカウンターで質問されなかった、電子ジャーナルやデータベースの使い方や、特許情報の探し方に関することをたびたびカウンターで尋ねられました。私自身が、以前より宇治分館で勤務している先輩の職員にいろいろなことを教えられながら利用者の方々のレファレンスに対応し、半学半教の日々が続きました。恥ずかしながら、今でもまだまだ勉強することがありますが・・・。

以上、図書館員としての業務について書いてきましたが、宇治キャンパスでは、他にも、大学職員としての業務もあります。

毎年秋に二日間、宇治キャンパス公開というイベントが開催されます。宇治キャンパスは研究所と大学院の研究科などしかないため、学部の受験生を主な対象としたオープンキャンパスはありませんが、学外の皆様にキャンパス内の様子や、大学で行っている活動の一端を知っていただき、さらには科学に興味をお持ちいただく一つのきっかけとして、このイベントは開催されています。具体的には、宇治キャンパス内で、地震に関する事など様々なテーマで講演会が開催されたり、体験型のイベントが行われたり、スタンプラリーが実施されたりします。また、宇治キャンパスから少し離れたところにある実験施設である宇治川オープンラボラトリーにバスで移動し、流水階段の歩行や大雨の体験など、災害を起こす自然現象の体験イベントに参加することもできます。私たち図書館職員も他の一般事務職員とともに、受付業務や駐車場の案内・誘導といった形でこの宇治キャンパス公開の運営に協力します。

また、遠隔地施設への出張という業務もあります。宇治キャンパスにある防災研究所は、全国各地に観測所などの実験施設を持ち、私たち図書館職員も、一般事務職員とともにこうした遠隔地施設に視察に行きます。私自身は徳高砂防観測所と、現在、噴火で話題となっている桜島にある火山活動研究センター桜島火山観測所に視察に行きました。桜島では現地で勤務する教員が運転する車に乗って島を一周し、火山や京大の遠隔地施設を視察しました。こうした出張を通じて、遠隔地で勤務する京大の教職員の実情を知り、彼らが学術情報にアクセスする上で不利益を被っていないかといったことを確認できたことも、宇治キャンパスでの勤務で得た収穫だったと思います。

4. おわりに

「わたしの図書館紹介します！」というタイトルの記事ですが、私自身の仕事の紹介にもなってしまったこと、ご容赦願います。このように私の勤務する図書館および私の仕事を紹介する機会を与えていただいたことに感謝いたします。また、ここまでお読みくださった読者の皆様にも感謝を申し上げます。ありがとうございました。

最後になりますが、当館のウェブサイトの URL を以下に記載します。ご興味を持た

れた方はご覧ください。京都大学の学内の方はもちろんのこと、学外の方も、ご利用になりたい資料がございましたら、ぜひともご来館ください（その際は、事前にご一報いただければ幸いです）。

今後とも、よろしく願いいたします。

宇治分館ウェブサイト <http://lib.kuicr.kyoto-u.ac.jp/homepage/japanese/index.htm>

※写真：外観、閲覧室、書庫



いまの そうすけ（京都大学附属図書館宇治分館）

京都支部：新入会員挨拶

前号に続き、新しく京都支部に加入して下さった会員4名の挨拶を掲載します。京都支部では2013年度から試行として学生会員制度を開始し、(少しずつではありますが)学生会員が増えてきました。今回の挨拶には、新規加入の学生会員3名が含まれています！

● 内田 栞さん

はじめまして。この度新しく大学図書館問題研究会京都支部に入会させていただきました京都大学工学部電気系図書室（吉田）の内田栞と申します。

大図研京都支部の皆様との出会いは、私が京都大学に入職してすぐの2013年5月に開催されたワンデイセミナー『「図書館活用法」授業評価活動～明治大学図書館におけるリテラシー教育評価の実践』でした。リテラシー教育に興味を持っていたこともあって、内容も非常に勉強になりましたし、またワンデイセミナーやその後の図書館見学を通して、多くの大学図書館員の方とお話しをする機会に恵まれたことがとても嬉しかったことを覚えています。その後ワンデイセミナーを中心に、機会があれば企画に参加しておりました。入職して3年目に現在の職場である電気系図書室（吉田）に異動となりました。ここで働くうちに、より広く情報収集し、色々な方と交流したいと思うようになりました。

ご存知の方もおられると思いますが、京都大学工学研究科には10の図書室があります。工学研究科には5つの系があり、系ごとに、吉田キャンパスと桂キャンパスにそれぞれ1つつ図書室を持っています。いずれも職員1-2人の小さな職場で、電気系図書室（吉田）も2人体制です。私の業務は、日々のカウンター業務から、受入業務、目録

業務そして予算管理や図書委員会まで、多岐に渡ります。文系出身の私には電気系の専門知識がないので、日々勉強をしているところです。(特に電気系図書室では独自分類を採用しているので、請求記号をつけるたびに頭を悩ませています。) どうすれば、より便利で利用しやすく快適な図書室になるだろうか、と常に考えながら業務を行っているつもりではありますが、少人数の職場のため、ともすると自分の図書室のことしか見えなくなってしまう。よりよいサービスを実現するためには、電気電子工学科の学生のことや授業のこと、先生方の研究内容等について知る努力をすることに加え、広い視野を持って、大学図書館に関わる情報をキャッチしていくことが大事だと実感しました。このような経緯で、大図研に入会させていただきました。

大図研をはじめ、図書館員には多くの勉強会やつながりを作る機会があります。先日事務系の同期と話をしていたら、「図書系でこんなに勉強会をしているなんて知らなかった、みなさん勉強熱心ですごいですね!」と言われました。このような環境を当たり前だと思っていたので、同期のその言葉に驚きましたが、改めて考えると非常に恵まれていて、そして楽しいことだよなあと思います。大図研に参加することで、私もよりアクティブに頑張っていきたいと思いますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。

うちだ しおり (京都大学工学部電気系図書室(吉田))

● 神村 菜里 さん

はじめまして。この度新入会員挨拶を書かせていただくことになりました立命館大学文学部3回生の神村菜里と申します。大学図書館問題研究会には昨年の北海道で行われた大図研全国大会への参加をきっかけに入会させていただきました。大学図書館は大学生の自分にとって最も身近な図書館なので、純粋に興味と好奇心で全国大会に参加させていただきました。北海道まではフェリーで約20時間かけて向かいました。一人ではおそらくこのような交通手段は使わなかったと思いますが、他に2人一緒に行くメンバーがいたので、初挑戦しました。意外にも初フェリーは、思っていたよりも快適でした。これも一つのいい経験だったなと思います。実際大会に参加してみて、大学図書館職員の方に限らず、公共図書館職員の方や企業の方も参加されており、直接的に図書館の仕事に関わっている方、間接的に関わっている方の相互の協力があって、図書館という場所が成り立っているということを実感しました。図書館業界に携わっている方々と直接意見を出し合う場というのはなかなかない機会であり、貴重な経験ができたと感じております。

私は、大学では文化芸術専攻という図書館とは全く関係のない専攻に所属しています。主に美術作品や美学に関する研究をしています。専攻は個人的な興味関心で決めたのですが、図書館に関しては就職にもつなげて考えていて、司書にも興味をもっていたので、現在司書課程を履修しています。図書館について学ぶ中で、資料提供サービス、レファレンスサービス、ビジネス支援サービス、ヤングアダルトサービスといった図書館サービスの多様さに驚きました。正直なところそれまで本を貸出・返却・閲覧するくらいでしか図書館を利用しておらず、司書課程を履修していなければただ本を読むだけの場所として利用していました。おそらく実際そのように利用している学生も多いと思われる。私も学んだ以上便利な図書館サービスは積極的に利用すべきだと思うので、私たち学生から知らない学生たちにサービスについて教える活動などもできたらいいなと感じています。

また、私は2回生から立命館大学図書館研究会(立図研)という自主ゼミにも所属しています。この団体には、司書や図書館関係の職を目指す人や図書館に興味をもつ学生が集まっています。立図研の活動としては、図書館総合展に参加したり、話題の図書館を見学したり、他の大学の団体さんとの交流会を行ったりしています。また、司書試験

の過去問や自分たちで考えた問題を解く勉強会なども行っています。これらの活動は、自分一人では経験できなかったことだなと感じています。一人で得られる情報には限界もありますが、刺激し合える仲間が集まることによって知らない情報や考えが共有できます。私が大図研全国大会に参加したのももともとは立図研に所属していたことでお誘いをいただいたからです。もし私が立図研に入っていなければ大図研という団体の存在も知らなかったと思います。私は、人のつながりの中で生まれる新しいつながりは大切にしていきたいと感じています。

私は図書館学を学び始めて2年経ちますが、まだまだ学ぶことはたくさんあると思うので、大図研のみなさんから吸収していきたいと思います。会う機会がございましたらぜひお話しして下さい。

今年私は就活、卒論とイベント盛りだくさんですが、大図研という団体の中で少しでも成長できるように勉強会などあれば参加したいと考えています。これからどうぞよろしくお願い致します。

かみむら まり (立命館大学文学部)

● 十倉 史帆 さん

はじめまして。立命館大学文学部3回生の十倉史帆と申します。大学で「立命館大学図書館研究会」という団体に所属しております、そちらでのご縁で昨年の夏より大図研に所属させていただいています。このたび紙面をお借りしまして、大図研京都支部の皆さんへのご挨拶を兼ねて自己紹介をさせていただきます。

出身は京都府福知山市(来年度より公立大学が出来るそうです)で、京都市内に下宿しながら立命館大学に通っています。大学では図書館司書課程と博物館学芸員課程を受講しており、司書課程の方は今年度で取得できる見込みです。小さい頃から「図書館」という場所が好きで、自然と図書館について勉強したいという思いを抱き今に至りました。ちょうど前の学期でレファレンスの演習の授業を取り、司書の仕事の大変さや楽しさを少し垣間見ることが出来た気がしています。博物館学芸員課程は、資料の取り扱い方、博物館でのメディア活用や広報・教育などに興味があって受講しています。図書館学と博物館学は違うところも多いですが、共通する考え方や互いに生かせることもあり、両方を学ぶ意義もあるのかなと感じています。

また、立命館大学の衣笠図書館で学生スタッフとして働いています。業務は排架や書架整理などで、また館内の掲示物なども作成しています。立命館大学では図書館に学生が関われる制度が整っており、大学に活動の自由を担保されつつ、学生スタッフが主体的に図書館に働きかける体制が確立されていると感じます。今度衣笠図書館が新しく建て替わるのですが、学生スタッフが新図書館内を使って隔月ペースでイベントを企画することになりました。普段大学図書館を利用しない層が図書館に興味を持つような企画、となるとなかなか難しく、何か良いアイデアはないかと探しておりますので、それぞれの大学図書館さんの取り組みなど参考にさせていただくことがあるかもしれません。

私は図書館の中でも図書館の場の使い方について興味を持っており、その中でも特にラーニング・コモンズについて興味を持っています。卒論のテーマは「公共図書館のラーニング・コモンズ」にしようと考えておりますが、なかなか自分の大学以外のラーニング・コモンズを見る機会がなく、他大学となると片手で数えるほどしか見学したことがありません。卒論に向けて、実際に自分の目で沢山のラーニング・コモンズを見たいと思っております。

昨年北海道で行われた大図研の全国大会に参加させていただき、大学図書館で働いておられる方々の生の声を聴き、北海道大学のラーニング・コモンズを見て、非常に刺激を受けることが出来ました。それ以降はなかなか予定が合わず、大図研の活動に参加す

ることが出来ていませんが、これからは積極的に参加していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

とくら しほ (立命館大学文学部)

● 若狭 あや さん

はじめまして、立命館大学文学部文化芸術専攻3回生の若狭あやと申します。私は現在立命館大学図書館研究会(略称:立図研)という立命館大学の自主ゼミに所属しております。立図研の先輩が大図研の会員であったことなど、そこからの縁で大図研に入会させていただくことになりました。

私が図書館に興味を持ったきっかけがどういうものであったのかはあまりはっきりと記憶にないのですがぼんやりと中学生くらいのころから図書館っていいな、と考えていたように思います。おそらく母親が本を読むのが好きで小さいころからよく図書館に連れて行ってもらっていたことや、小学校や高校での司書さんとの出会いがきっかけであったのだと思います。

そしてどこの大学に進学をするか考えたときにやっぱり図書館について勉強がしたいと思い司書課程のある立命館大学に進学することを決め、司書課程を履修するようになりました。最初のころは図書館というものは本を読んだり借りたりする場所くらいの認識だったのですが、学んでいくと図書館というものはもっと色々なことができる場所であると知りました。そしてもっと色々学びたいと思うようになりました。そして立図研という団体を知り、そこでの様々な活動、図書館見学や勉強会などに参加していくうちにさらに図書館への興味がわいてきて今にいたります。

色々なことに興味を持ちやすい性格でありまして、大図研の北海道大会の分科会に参加して以来、自動書庫に興味がありますし、2015年の図書館総合展のフォーラムに参加して以来、障害のある人に対する図書館サービスにも興味を持っています。図書館施設論を学んで以来、図書館建築にも興味があります。そして他にも、昔から絵本が好きで、立命館大学では絵本などを研究テーマにしていることもあり児童サービスにも興味があります。興味を持つだけではなく色々なところからこれらのことへの学びを深めていきたいと考えています。

様々なことを学びたいと思っているにもかかわらず北海道大会以後、うまく予定が合わずなかなか大図研の活動に参加出来ていません。とても残念です。もうまもなく就職活動が始まることもありしばらくは参加が難しいとは思いますが、落ち着き次第また活動に参加させていただきたいと思っています。まだまだ不勉強であり、知らないことばかりですが、今後もよろしくお願いいたします。

わかさ あや (立命館大学文学部)

◇ 会費納入のお願い ◇

会員みなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。2014年度以前の会費をお納めいただいていない会員みなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000 (大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000) です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 (kyoto@daitoken.com) まで。